

衆議院厚生労働委員会ニュース

平成 21.11.26 第 173 回国会第 5 号

11月26日(木) 第5回の委員会が開かれました。

1 厚生労働関係の基本施策に関する件

- ・長妻厚生労働大臣、長浜厚生労働副大臣、高井文部科学大臣政務官、山井厚生労働大臣政務官及び足立厚生労働大臣政務官に対し質疑を行いました。

(質疑者及び主な質疑内容)

大村秀章君(自民)

- ・次期診療報酬改定について、藤井財務大臣は3%引下げと主張しているが、厚生労働大臣の見解をお伺いしたい。
- ・新型インフルエンザに関する医療提供体制の整備について、第2次補正予算を編成するなどの財政措置も含め、十分な支援を講じる必要があるのではないかと。
- ・肝炎治療のために休職・休業を余儀なくされた肝炎患者に対する所得補償などの財政的支援を含めた生活支援について、厚生労働大臣の見解をお伺いしたい。

棚橋泰文君(自民)

- ・懲戒処分を受け、日本年金機構に移れない社会保険庁の職員については、たとえ非常勤であっても公務員として採用しないことを明確にすべきではないかと。
- ・新型インフルエンザの発生は国家の危機管理上重大な課題であるとの認識のもと、ワクチンの接種費用は、国の全額負担として無料とするべきではないかと。
- ・鳩山総理大臣が政治資金不正疑惑の解明を検察に委ねて自ら積極的に説明しようとしなかったことについて、厚生労働大臣はどのような認識をもっているのか。

古屋範子君(公明)

- ・新型インフルエンザワクチンが必要な人に行き渡らない実態についてどのように考えるか。また、薬剤師や介護従事者、保育士等新型インフルエンザの影響が出そうな方々についてもワクチンの優先接種の対象者に含めるべきではないかと。

きではないかと。

- ・世界保健機関(WHO)が全ての国で定期接種にすべきと勧告しているヒブワクチンについて、日本においても第一類の定期接種に位置付けるべきと考えるがいかがかと。
- ・ワクチン行政全般を担う、日本版ワクチン接種に関する諮問委員会(ACIP)の創設に向けて来年度の予算確保も含めた厚生労働大臣の考えをお伺いしたい。

高橋千鶴子君(共産)

- ・350万人といわれるウイルス性肝炎患者への経済的支援が、患者本人ではなく国に責任があることを根拠としているという認識が、厚生労働大臣にはあるかと。
- ・インターフェロン治療への医療費助成だけでなく、B型肝炎に係る様々な治療や肝硬変、肝がんの患者に対しても医療費助成を行うべきではないかと。
- ・B型肝炎訴訟の解決に向けた厚生労働大臣及び山井厚生労働大臣政務官の決意をお伺いしたい。

江田憲司君(みんな)

- ・医療材料は日本国内と海外で大きな価格差があるが、その要因は何で、具体的な正策としてどのようなものかを考えているか。また、医療材料の価格は保険償還価格で表示されているが、原価を非公表としているのはなぜかと。
- ・診療報酬は第三者が見ても理解できないほど複雑で、ドクターフィーとホスピタルフィーの区分けもされていない。診療報酬体系の抜本改革へ向けた厚生労働大臣の決意をお伺いしたい。

2 新型インフルエンザ対策の推進に関する件

- ・青木愛君外5名(民主、自民、公明、共産、社民、みんな)から提出された新型インフルエンザ対策の推進に関する件の決議案について、提出者青木愛君(民主)から趣旨説明を聴取しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもってこれを委員会の決議とすることに決しました。
(賛成 - 民主、自民、公明、共産、社民、みんな)
- ・長妻厚生労働大臣から発言がありました。

3 肝炎対策基本法案起草の件

- ・藤村委員長から趣旨説明を聴取しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもって起草案を成案とし、これを委員会提出の法律案とすることに決しました。
(賛成 - 民主、自民、公明、共産、社民、みんな)

4 肝炎対策の推進に関する件

- ・内山晃君外 5 名 (民主、自民、公明、共産、社民、みんな) から提出された肝炎対策の推進に関する件の決議案について、提出者加藤勝信君 (自民) から趣旨説明を聴取しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもってこれを委員会の決議とすることに決しました。
(賛成 - 民主、自民、公明、共産、社民、みんな)
- ・長妻厚生労働大臣から発言がありました。